

A 167 パーソナルコンピュータによる栄養価計算プログラム  
美作女子短大 藤井わか子

目的：最近の情報化社会の中で、企業をはじめ教育施設においてコンピュータの導入は目覚ましいものがある。着者は栄養士養成校で調理を担当する上で献立作成する際の栄養価計算の時間的制約は大きく、くゞ返えず効果に制限があり、十分な成果があげられないと日頃考えている。そこでコンピュータの利用による栄養価計算の時間的短縮が計れないものか、市販プログラム、専門雑誌などを参考に、より使い易く、多目的に使用できることを重点におきプログラムの開発を試みた。

方法：使用機種はNECパーソナルコンピュータ（本体PC-9801RAM128Kバイト、ディスプレイ、ディスクユニット8インチ、プリンター）を使用し、プログラム言語はBasic言語を用いた。

結果：プログラムは1. 四訂食品標準成分表（1621食品）を全てデータファイルとした。2. 食品選択は食品群別に画面表示し、学習機能を導入した。3. 料理ファイルを使用し食品群別と同様に選択出来る様に作成した。4. 入力した食品（献立）と栄養価を保存出来、訂正、検索が出来るものとした。以上の特長を有し、このプログラムを使用することにより従来電卓で計算を行うと1日分を処理するのに2時間は必要な所が20分前後で処理することが出来る。また学習機能を導入したことにより、導入前のプログラムに比らば5～10分の時間の短縮が得られた。また料理ファイルの利用によりさらに入力の時間が短縮出来る。このプログラムの導入で栄養価計算の短縮化によりくゞ返し献立作成が可能であること、また献立の充分な検討が出来ること考えられる。